

環境教育学会 関西支部通信

第4号

関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々が環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費（1年分）をいただきましたら、ワークショップの案内葉書と ECOMAILを送らせていただきます。

（通信費振込先……郵便局「大阪 9-37886」日本環境教育学会関西支部）

第9回ワークショップのお知らせ

日時 3月30日（土） 午後 2:30~5:00

会場 大阪教育大学天王寺分校

（JR大阪環状線寺田町から西へ5分、JR・地下鉄天王寺から東へ8分）

話題提供 藤永延代氏（大阪しろきた市民生協 専務理事）

『消費と環境学習 ——しろきた市民生協の取り組み——』

多数の参加をお待ちしています。（参加費 無料）

日本環境教育学会第二回大会（大阪）

日時 1991年5月18日（土） 受付 9:30~

特別講演 宮本憲一先生（10:30~）

シンポジウム（13:00~） 総会（16:30~）

19日（日） 受付 8:30~ 一般講演（9:00~16:00）

会場 大阪教育大学天王寺分校および（隣接する）大阪南YMCA

（JR大阪環状線寺田町から西へ5分、JR・地下鉄天王寺から東へ8分）

参加費 当日 3500円（二日間）（学生 1500円）

問い合わせ先 環境教育学会関西支部（宛先、電話番号などは本号6頁に掲載）

次ページに概要紹介

日本環境教育学会第2回大会開催へ向けて

来る5月18日、19日の2日間にわたり、大阪で上記大会を開催することになり、あと2カ月余りに迫ってきましたが、関西支部の方々のご協力によって着々と準備が整いつつあります。すでに学会事務局から大会のプログラムが送られたかと思いますが、ここでもその概要を紹介しておきます。

18日の午前10:30からは、大阪市立大の宮本憲一先生に「持続可能な発展と環境教育」というテーマで、経済学の立場から今日の環境問題解決への方策とそのための環境教育のあり方についてお話をいただきます。ご多忙のところをお引受けいただきました。午前中ですが、是非万障おくりあわせの上お集まりください。午後からは「今、求められている環境教育とは? PART II」というテーマでシンポジウムを開きます。国際的に活躍されている中山先生をはじめ、多彩なパネラーによって、これからの環境教育のありかたについて議論が展開されることが期待されます。皆様もその議論にご参加ください。その延長は夜の懇親会でもどうぞ。

19日は70近い研究・実践報告がなされます。さまざまな地域で、さまざまな人によって、さまざまな方法で展開されている、展開されようとしている環境教育や環境学習を聞くことができます。昼やすみには、関連集会、夕方にはアメリカで環境史に取り組んでいるオースター氏を囲む会もあります。多数のご参加で大阪での大会を実りあるものにしてください。

(1991.3.12 大阪教育大学 鈴木善次)



春はど〜ってあるのかな

それはきれいな花が見れるから

夏はどうしてあるのかな

それはかわいい虫が見れるから

秋はどうしてあるのかな

それはすてきな落ち葉が見れるから

冬はどうしてあるのかな

それは白い雪が見れるから

きせつはどうしてあるのかな

それは一年が楽しめるから

小島亜矢子

豊中市立新田小学校三年二組

環境教育と私

橋本君江 (大阪府豊中市)

困った、実に困った。私のようなただの主婦に、いったい何が書けるのだろうか。頭をかかえこんでいる私をみて、子供たちは「図書館で文章の書き方の本を借りて来て勉強したら?」とか、「皆にみてもらって添削してもらえよ」とか、いろいろな心配をしてくれました。思えば、この子たちが私のようなバカな親をいつも励まし声援を送ってくれた一年半でした。難しい環境問題うんぬんは先輩諸氏にお任せするとして、私なりの環境意識みたいなものを、上手に書けるかわかりませんが書いてみよう。．．．ということになったのですが。．．．

私が環境問題に目覚めた(本当に或る日突然目覚めたという感じなのですが)のは、わずか一年半程前のことでした。それ以前はまるで関心が無く、子育てとか、快適な暮らし方とか、おしゃれに関することが関心の向くところでした。毛皮のコートや象牙のアクセサリーが欲しかったし、電化された便利な暮らしの中で、使い捨てのもので家事の手抜きをして、豊かだと思いこんで暮らしていました。変われば変わるもので、今は毛皮のコートなどちっとも欲しいと思わないし、ハンバーガーをみると森林破壊を思いうかべ、100%パルプのトイレット・ペーパーを買う人を見ると一言いいたくなります。何が私をそうさせたのか。．．．多分、それは四ヶ月間ためてみた牛乳パックの束の重み、それが私を変えたのでしょう。四ヶ月で370枚もたまった牛乳パックを通して、今まで見えなかったものが見え始めました。「私の暮らし方は間違っていた」。．．．気がついてみると、地球のあちこちで環境破壊が進んでいました。それ以来、私の生活は変わりました。関心は環境問題に集中していきました。地球規模の森林破壊をくい止めるためにはどうしたらよいか。．．．そんなことを考えるうちに、いつしかごみ問題を追いかけていました。

Think Globally, Act Locally! これはある講座で知った標語ですが、グローバルに考えているうちにいつの間にか足もとから行動をしていました。今、牛乳パックの回収を地域に広めようと努めています。よくよく考えると気の進め運動ですが、現状ではやらないよりましでしょう。九月からマンションのボランティア活動を始めました。緑化推進の会で木へのいとおしさや、自然とふれあえる子供の心を育む自然環境教育につなげ、皆で緑のありがたさを見つめ直す、そういう目的を持つ会にしてゆきたいと思っています。この三〇数年で急速に進んだ環境破壊、私達の豊かな暮らしのつけを子供たちにそのまま残していいのだろうか。自分たちの世代だけでなくこれから子々孫々生きてゆく地球を、これ以上、私達人間だけの都合で傷を広げるわけにはいきません。大人も子供も、ともに今すぐ暮らしを見直してゆかなければなりません。そういう仲間を少しづつ増やしていくために私に何ができるか考え行動していくつもりです。



橋本君江さん

「ごみ問題の勉強や、みどりの会の活動などの合間に四人の子供の世話にも奮闘するはりきりマミー。趣味は児童文学を読むことと、植木の世話、愛犬ベスとのおしゃべり。」横で見ていると御家族がうらやましく思える、素敵なお母さん。

ユースホステル運動と環境教育の可能性

山本幹彦 (財)京都ユースホステル協会

環境悪化が危機的な状況となり、人のいとなみや自然・環境との関係の見直しが迫られている今、ユースホステル(YH)運動との関わりを設立当時の思いをふり返りながら、今後の展望をしてみようと思います。

YHは、1910年に休暇中の学校を宿舎としてドイツで始まりました。その15年程前には、ワンダーフォーゲル運動が、急激に発達した工業社会に対して人間の自然性の回復を求めて起こっています。その活動家だった小学校のシルマン先生は、日々子供たちを自然の中へ連れ出し、さらには徒歩旅行を通して、自然と触れ合う時の感動体験を大切にしていました。このような活動の中から、簡素で清潔・安全な宿舎のネットワークの必要が感じられ、やがてドイツ国内に広がっていきました。

その後、シルマン先生は第一次大戦での従軍を機に、世界中の若者が互いに知り合う場での『顔の見える交流』こそ、平和な世界を形成する基礎になるとの思いから、国際的な運動が展開されていきます。

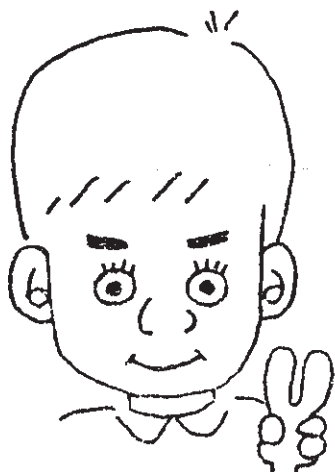
そして、自己のアイデンティティ形成過程の非常に重要なライフステージにいる青少年を、主な対象としています。

要するに、YH運動は自然における感動体験と、国境を越えた交流による地球市民としてのアイデンティティを持つことを目的にした運動として始まりました。

このような目的に『こだわる』ことこそ、環境教育につながっていくことだと私は考えています。自然体験・文化体験の場として、人と人との交流による顔の見える関係は、環境問題を考えていく上でも非常に大切なことだと考えます。

とくに、南北問題に象徴されるように、他者・他国の権利や、暮らしと共存していかなければならない時に、明確なイメージを持つことを可能にする『相手の顔の見える関係』は、地球市民として非常に大切な方法だと思います。

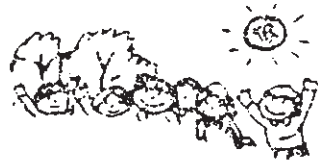
YH運動の目的を実現する場として、日本に約500、世界中には約5,500のYHがあります。現実には、目的どおりでないところも多いし、環境に対する運動体として認識されていないことに対し悔しい思いもします。しかし、簡素な旅でしか味わえない、いくつもの出会いに『こだわり』、環境教育にアプローチする運動内容を創り出す必要を痛感しています。



山本幹彦さん

1956年、京都生まれ。(財)京都ユースホステル協会職員。「長男のアトピーをきっかけに、『環境悪化のツケが弱いところに来ている』と実感させられ、仕事も生活もやり直し始めたところ...山を徘徊すること、北海道の大胆さに心引かれ、北山は長年のホームグラウンドとしてつき合っています」と語る。誠実で、話すとき大変おもしろく、とても若く見えるお父さん。

ネット・フック



- (1) 『SAVY 体験 びわ湖』 『水質と生態系からびわ湖を考える学習会』
3月17日(日) 12:30~17:00 草津市勤労福祉センター(JR草津駅西口)
参加費 資料代など 500円 定員 50人
中西正巳 「植物プランクトンを中心としてびわ湖を考える」
国松孝男 「びわ湖の水質保全を考える」
他 パネル・ディスカッションなど
5月11日、12日にも、調査会を行なう予定
問い合わせ先 びわ湖自然環境ネットワーク (☎ 0775-24-1552)
- (2) 『春の自然教室』 『山の春をさがそう!!』
3月26日(火)~29日(金) 3泊4日 対象 小学生 定員 90人
参加費 22,700円 (宿泊費、食事代、傷害保険料、バス代など)
集合解散 大阪府立青少年会館 宿泊 府立総合青少年野外活動センター
スター(星)・プラント(草木)・バード(鳥)・アニマル(動物)・インセク
ト(昆虫)ウォッチング、野草料理、ネイチャーゲームなど
受付、問い合わせ先 (財)大阪青少年活動振興会 事業部 『春の自然教室』係
(☎ 06-942-5146)
- (3) 『自然ふしぎ体験キャンプ』 『街ウォッチング』
3月29日(金)~30日(土) 1泊2日
「スーパー・マーケット探検隊」、「街を撮る」、他
主催、受付、問い合わせ先 豊中市立中央公民館 (☎ 06-866-0555)
- (4) 『春と教育を考える会』 『炭やき』
3月31日(日) 「南河内・水と緑の会」と共催 (次項を参照のこと)
- (5) 『みんなを炭やきにおいで!』
3月17日、24日、31日、4月7日、(予備日 4月14日) 小雨決行
参加費 400円 (中学生以上) 場所 南河内郡河南町持尾
集合 徒歩:近鉄富田林東口(9:20) 車:近鉄藤井寺北口ロータリー(9:00)
炭を一度は焼きたい人、炭やきガマに入りたい人、里山の春を満喫したい人、
里山の文化をハダで感じたい人、里山の自然を見つめなおしたい人、地元のお
おっちゃんと話したい人、みんなOK。いっしょに炭を焼きましょう。
参加者は1週間前までに必ず連絡のこと。
連絡先 ☎ 昼 0729-54-6089 島田 夜 0729-54-5553 平尾
主催 南河内・水と緑の会 (☎ 0729-55-2671 草野)

(6) 『1991年 風山動物調査』 大正蔵下一帯各峰で

4月14日(日) 午前9時頃から午後3時頃まで

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴のこと) 定員はコースごとに異なる

参加費 大人 500円(調査マニュアル、報告書代などを含む)、小学生 200円

コース 能勢、茨木、箕面A、箕面B、高槻、河内長野、生駒、堺

ハイキングしながら 動物たちのフィールド・サイン(生活のあと)を捜して、
生息状況を調べていく

参加希望者は、希望コース名・氏名・性別・年齢・電話番号を、次のところまで
電話で申し込むこと

主催、受付、問い合わせ先 (社)大阪自然環境保全協会 (☎ 06-374-3376)

(7) 『レイチェル・カーソン 91京都のつどい』

4月14日(日) 午後1時30分から3時まで(終了後、「哲学の道」散策)

参加費 500円 会場 法然院(京都市左京区鹿ヶ谷、銀閣寺の南)

久山喜久雄 「法然院『森の教室』の活動について」

沢井清 「大文字山の自然を守る活動について」

岡田真弓 「京都のまちと自然をまもる活動について」 ほか

主催 レイチェル・カーソン日本協会 (☎ 06-941-3745)

(京都連絡先 京都消費者団体連絡協議会 ☎ 075-251-1001)

(8) 第3回 グリーンレンジャー募集

グリーンレンジャー：大阪府民の森で開催される自然観察会でのリーダー活動を
中心に保全協会の各種自然保護事業に参加してもらう学生ボランティアのこと

応募対象：18才以上の大学生、短大生、専門学校生 定員 20人

グリーンレンジャーには、室内講義や実際のフィールドに出向いての宿泊研修等で、
自然に対する見方や自然保護運動の理念、環境問題に関する情報提供、アウト・ドア
のノウ・ハウ等の各種研修を実施(研修および活動においては、交通費など支給)
受付、問い合わせ先 (社)大阪自然環境保全協会 (☎ 06-374-3376)

◆関西支部ワークショップ話題提供、エコメール投稿を募集しております。

◆ネットワークへの情報提供もよろしくお願い致します。

関西 E C O M A I L

第4号 1991年3月15日発行

通信費 年1000円

編集 環境教育学会関西支部世話人会

発行 環境教育学会関西支部

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 鈴木善次研究室内

(☎06-771-8131 [内線 417])

パソコン通信で原稿を下される場合は、NIFTY= PFG00460

次回 第5号 1991年5月10日発行予定 原稿締め切り 4月20日